



だな～
Dr田名の産業医だより2012年5月

別れと感謝

悲しみを乗り越えて

～緩和医療の現場から～



だな たけし
産業医 田名 毅 (首里城下町クリニック)

当院4月の地域向け医療講演会は、「別れと感謝 悲しみを乗り越えて～緩和医療の現場から～」というタイトルで国立病院機構沖縄病院 緩和医療科医長 大湾勤子先生をお招きしてご講演頂きました。呼吸器科専門医として多くの肺癌患者を看取っていくうちに、緩和医療に取り組むようになった先生です。日頃の診療において、多くの患者さんとの「別れ」を経験されている先生しか話せない内容でした。参加者は95名で会場は満席となり、このテーマに対する社会の関心の高さを感じました。今回は先生のご講演を要約することはできませんので、私のメモをもとに全体の雰囲気をお伝えいたします。

緩和医療とは

一般的には「がんの痛みをやわらげて穏やかな死を援助する」という解釈だと思いますが、大湾先生は「(患者さんが)自己実現することを助けること、自分自身をケアできるように援助すること。(亡くなるまでの)過程が第一で、(生のある)現在が大事。自分でできることは自分ですること。」と話されていました。

【紹介事例1】

24歳の若さで耳鼻科系の癌(上顎骨肉腫)で亡くなった男性患者さんの話。

癌が顔をおおうほど大きくなり、次第に目もみえなくなったそうですが、自分の周りのどの位置に何があるかを記憶して、最後までできることは自分でやろうと頑張られていたそうです。年齢が若かった分、医師やスタッフも考えさせられることの多かった患者さんだったと話されていました…。

この話の中で、参考になる本やキーワードをご紹介します。

- ・池田晶子 「存在しているのは常に今だけ」「死に方上手」(いずれも“41歳からの哲学”という本からの引用のようです)
- ・谷川俊太郎 「死を熟れきった生としてとらえること」
- ・スーザン・バーレイ 「わすれられないおくりもの」(絵本)



【紹介事例2】

61歳男性、前立腺癌になった患者さんの話。

癌の末期の状態緩和病棟に入院。10年来、音信不通の家族と先生が連絡を取り、会いに来てくれるよう頼んだ。生きていない人だと思っているから、との返事であったが、最後には会いに来てくれ、患者さんは自分の存在価値を確認したようであった。そして病院のベランダのプランターで家庭菜園をはじめた…。

彼の心に大きく届いたのは娘の言葉のようであった。「私と家族にとってはどうしようもない父親であったが、私にとっては一人しかいない父親であり最後はみとどけてあげたかった…。」このような家族の接し方が本人の生きる姿勢を最後の最後に変えたように思えた。



【紹介事例3】

70歳女性、肺癌になった患者さんの話。

離島にお住まいの方で、肺癌に対する化学療法のために大湾先生が勤務していた病院に定期的に来ていたようです。はじめは薬の効果もあったが、徐々に薬が効かなくなった。本人は少しでも良くなってから郷里には帰りたいという思いがあり、入院の延長を求めているよう。病状から先生はこう話されたそうです。「気持ちもわかるけど、(離島に)帰るタイミングも大事だと思います・・・。」

その言葉を聞き、自分の死期が近づいていることを悟った患者さんは、「わかりました」と話され退院し、離島に帰る決心がついたそうです。そして、1週間後に他界されたとのこと。大湾先生が今も宝物として持っているのが、その患者さんからの手紙で、その中には「最後まで悔いのないように精いっぱい過ごしたい。大湾先生にお会いできて本当に良かったです。」と書かれていたそうです。

講演の後半の、私のメモからキーワードを列記します。関心のある部分はご自身で検索してみてください。

・「いのちはそこに存在するだけで、すでに価値をもっている」

「役立つことには限界がある。役立つことは、自分の存在価値の認識である。しかし、いのちは役立つから価値があるのではない」

・「ヌチ(命)がフー(果報)」「ゆいまーるで支えて、なんくる生きていく」

・「ずーっとずっと大好きだよ」と、愛していることを伝えること、愛している思い出が悲しみを乗り越えさせてくれる

・モリー先生、モリス・シュワルツ

身体はあなたの自己の全部ではなく、その一部に過ぎません。

・「人生への活発な参加を続ける」

・「葉っぱのフレディ ～いのちの旅～」(絵本)から
いつかは死ぬさ、でもいのちは生きているのだよ。

・谷川俊太郎の詩集から

「私の星座」「シャガールと木の葉」



講演の終わりに、大湾先生はご自身が緩和医療にたずさわるにあたって、尊重されていることをまとめていました。それは「時間・関係性・自分らしさの尊厳」でした。

そして、最期を迎える人には「頑張った！ やったー！ ありがとう」と思って欲しい。

「ごころうさま ゴールおめでとう ありがとう」と言ってあげたい。

その言葉からは、先生ご自身が最期を迎える時にもこのように言ってもらえるよう生きていきたい、と話されているように、私は解釈しましたし、会場の皆さんもそのように感じたのではないかと思います。



【私の感想】

医療は常に生と死が隣り合わせです。私は医師として22年になりますが、実際に多くの方々の死を経験したり、近親者の死を乗り越えようとしている多くの方々と接してきました。どんなに本人が気をつけていても、どんなに医療が支えようとしても、「死」はひとり一人に必ず訪れます。日本は、「死」について考えること、家族で話をすることを、“縁起でもない”と言ってタブー視する風潮があります。今回の講演は緩和医療を通して、死生観について学ばせてもらう貴重な経験でした。参加者の感想からもこのような言葉が多く聞かれました。大湾先生には感謝いたします。

今後もこのような機会をつくっていききたいと思います。



お知らせ



第111回 首里城下町クリニック 『地域むけ医療講演会』

日時: 5月29日(火) 19:00~

テーマ: 高血圧に負けない生活習慣 ~一緒に考えてみましょう~

講師: 与那原中央病院 循環器科診療部長 中村 義人 先生

どなたでもお聞きになれます。

その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック「働く人健康支援室」は、

あなたの 相談窓口 です!

相談窓口

産業医は、あなたの職場と職場で働く方々の心とからだの健康を支援します。

★産業医・保健師による事業所訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では保健師による健康相談を行っています。どなたでもどうぞ! 事業所訪問などで不在の事もありますので、お電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。

事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお話ください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅



保健師・産業カウンセラー
認定産業看護師 **田名彩子**



保健師
又吉雅代



認定産業看護師
山城愛子

連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 070-5814-0065 (田名彩子)
メール saiko@biscuit.ocn.ne.jp

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい!